

12. 「日本における『じゃじゃ馬ならし』」、『武蔵野短期大学研究紀要』第7輯、武蔵野短期大学、平成5年6月、ISSN:0288-8025

189-196 頁

『じゃじゃ馬ならし』の受容史を翻訳・研究・上演の項目に分けて論じた。特に、上演における序幕の扱いに関する演出について、国内外の劇団の演出を中心に論じた。演出を通しての比較演劇、演劇交流、国際文化交流についても論じた。また、序幕が独立劇としての明治時代に上演されていたり、序幕を上演することで劇全体が二重構造となっていることにも触れた。特に上演に特徴があらわれる劇として論じた。(B5)